

山形プレイパーク in 米沢

日時：2012年7月7日（土）・8日（日） 10:00~15:00

場所：米沢市・北村公園

主催：NPO法人フードバンク山形

共催：NPO法人自然農食山形よもぎの会

農業生産法人ティーム オーガニックガーデン菜のはな

2012年7月7日（土曜日）雨 午後一時曇り

【山形プレイパーク in 米沢・1日目】

山形県では山形市に続いて2回目、米沢では初めての“冒険遊び場・プレイパーク”である“山形プレイパーク in 米沢”が、米沢市・北村公園にて開かれました。

この日は朝から、あいにくの雨模様。それも時より強く降り、米沢には大雨警報が発令されるほどでした。それでも朝早くからスタッフが集まり、予定通り開催されました。

今回の“山形プレイパーク in 米沢”では、主催者から“だがしや楽校”を開きたいというオファーがあり、私（山口）としては“山形プレイパーク in 米沢”として“だがしや楽校”を開くことが目標ですが、今回は第1回目であり、2日間の内1日目は、こちらで“だがしや楽校”仲間におみせを出してもらおうことにします。それで2日目は主催者で“だがしや楽校”のおみせを出してもらえませんか」と提案しました。

これは、共催である“自然農食山形よもぎの会”では、昨年（2011年）私のサポートにより被災者支援として仙台にて何度も“だがしや楽校”を開いたという実績があるからです。

それで、1日目のこの日“だがしや楽校”のおみせを出したのはIshiさんです。

山形県中山町に住むIshiさん（この3月、東北芸術工科大学・大学院修了）は、プレイパークにも関心があるということで、私からの依頼に快く引き受けてくださいました。これで私も心強くなりました。

この大雨で開催を危ぶまれたIshiさんは、私に電話をくださいましたが、私が「予定通り開催します」と答えますと、私よりも先に北村公園に着いていました。そして、皆さんと交流を始めていました。

この日のIshiさんは“だがしや楽校”のおみせだけでなく、ほかのおみせや遊びにも積極的に参加され、まさに縦横無尽の大活躍です。そこで、1日目のレポートでは、Ishiさんの活動を中心に“山形プレイパーク in 米沢”の模様をご紹介しますことにしました。

なお、今回の“山形プレイパーク in 米沢”では、NPO法人日本冒険遊び場づくり協会・地域運営委員の早川大さん（善ちゃん）が、実質上のプレイリーダーになりました。善ちゃんは山形にプレイパークを普及させることを目的に、しばらく山形に滞在しています。また、同じく日本冒険遊び場づくり協会の須永さん（ぶんちゃん）は、1日目ですが、仙台市から“あそぼうカー”を持って参加しました。

山形県内からは、ミュージシャンでカウンセラーでもある大谷哲範さん（フードバンク山形）と心理カウンセラーの志村友理さんがスタッフとして加わりました。

また、“TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT”代表の榎森さん（山形市）はカフェで参加。大谷さん・榎森さんはフードバンク山形の理事でもあります。榎森さんは、今回の“山形プレイパーク in 米沢”の主催者である丸山さん（高畠町）と同じ天台宗・住職でもあります。

増田さん・村上さんらNPO法人自然農食山形よもぎの会（米沢市）の人たちも、スタッフとして参加しました。それに、学生さんもスタッフに加わりました。

それにしても、この大雨です。外遊びはしばらく断念です。

この大雨では、米沢市民や福島などからの避難者が北村公園に集うかもわかりません。そこでスタッフ同士で交流しながら様子を見ることにしました。そうしたら、スタッフ間のコミュニケーションが深まることになりました。

Ishi さんも、自分のおみせをしながらも、いろんな人を交流していました。

はじめに、Ishi さんのおみせをご紹介します。

▼まゆだけまゆこさん

山辺町のニット工場で余った糸を活用した Ishi さんお馴染みのおみせです。でも、プレイパーク・スタッフの皆さんにとっては初めての体験です。どんな反応を示すでしょう。



Ishi さんが車から材料を取り出しただけで、早川さんをはじめ皆さん「凄い」という反応です。



早くも Ishi さんを中心に、まったりだがしや談義が始まりました。善ちゃんと志村さんは、糸巻きに挑戦です。

さらに Ishi さん、おみせでは、“山形プレイパーク in 米沢” にやって来た米沢に住む福島の人たちとの談義も積極的に行っていました。(右の写真)



この日は七夕です。Ishi さんは七夕飾り用の竹竿を持ってきました。そして、折り紙で作った短冊に願い事を書いて、飾り付けしました。



はじめは寂しかった七夕飾りですが、午後から雨が小降りになったこともあって、参加者がやって来ては願い事を書いた短冊を飾っていました。「早く天気になって」「元気に育って」などの願い事が見られました。

先にご紹介したように、Ishi さんは皆さんと積極的に交流していました。右の写真の左が善ちゃん、中がぶんちゃん、右が Ishi さんです。プレイパークやだがしや楽校について、お互いに紹介しながら、情報交換し、交流を深めていました。



そのぶんちゃんが持ってこられた“あそぼうカー”もご紹介します。



見ているだけで楽しくなっちゃう車です。中にはたくさん遊びが入ってきます。移動プレイパークとも言える車ですが、私は首都圏や静岡で、同じような車を拝見しています。

その“あそぼうカー”から出てきたのは、トンカチを叩いての木工工作です。(右の写真)



Ishi さんも挑戦です。Ishi さんが遊んでいるのは、自由にクギを刺して作るパチンコ台です。



↑親子でトンカチを叩く風景も見られました。このように、雨が小降りになった午後には“山形プレイパーク in 米沢”にやって来る人が増えてきました。



↑次にIshiさんが訪れたのは“青空カフェ”です。雨降りでも“青空”にはなりませんでしたが、“TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT”代表の榎森さんが美味しいコーヒーを煎れてくださいました。

▼魚つり

続いてIshiさんは、魚つりのおみせにやってきました。この魚つりのおみせは“だがしや楽校”として出したものです。

今回の“山形プレイパーク in 米沢”の共催であるNPO法人自然農食山形よもぎの会では、東日本大震災が発生した後、いち早く被災地支援に動き出しました。被災地支援では、仙台市のNPOと協力し、復旧・復興活動や野菜などの食料品を提供する活動を行いました。

その際、「子どもたちのためにも何かできることはないか」と考え、私（山口）に「“だがしや楽校”を開きたい」という話があったのです。そこで私は“だがしや楽校”について紹介し、開き方のヒントをお伝えしました。

この日の魚つりのおみせは、その後の“だがしや楽校”活動の中で、自然農食山形よもぎの会が生み出したおみせであります。



Ishi さんも、魚つりを始めます。大人でもやってみると意外におもしろいです。



お魚は、みんなで作ります。楽しいお魚が次々にできて、Ishi さん、感心しています。Ishi さんもお魚作りに参加です。

子どもたちにもお魚を作ってもらいました。ここに、お店とお客さんという関係はありません。

“だがしや楽校”に来られた人も一緒になり、みんなで遊びを作っていくという“だがしや楽校”風景を見事に再現していました。最高の“だがしや楽校”です。



これを発案した自然農食山形よもぎの会の村上さんにも感謝です。素晴らしいです。



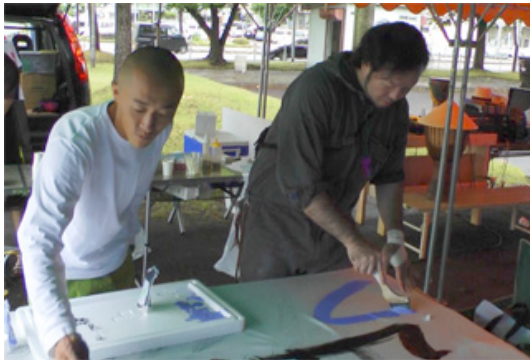
その自然農食山形よもぎの会では種植え体験コーナーを設けたほか、グリーンマローという野菜の販売も行っていました。グリーンマローは、見た目はカボチャのようですが、生でもサラダにしても食べられる野菜だそうです。私は初めて見ました。



雨の中、唯一プレイパークらしい風景が見られたのが、これです。Ishi さんも綱渡りに挑戦です。バランス感覚抜群のIshi さんです。



Ishi さんのおみせの脇では、大谷哲範さんと丸山さんによる音楽ライブが始まりました。天台宗住職・丸山さんの隠れた才能です。雨の中、これで一気に盛り上がりました。



終わり頃になって、横断幕への題字描きが始まりました。本当は、最初に子どもたちも交えて描き、プレイパーク入口に掲示することになっていたのですが、雨天でできなくなってしまいました。明日に期待です。

このように、“山形プレイパーク in 米沢” 1日目は、雨にたたられてしまいました。

せっかく、中山町から遠征された Ishi さんに本来の“プレイパーク”風景をお見せすることができず、残念な思いです。

でも、雨によって、逆にスタッフ同士が、まったりと交流することができました。スタッフ同士と言っても、多くの人たちが初対面だったからです。雨が思わぬ人と人とのつながりを生みました。

今回の“山形プレイパーク in 米沢”は地元・米沢市だけでなく、高畠町・山形市・仙台市からもスタッフとして加わりました。フードバンク山形には、現在は米沢に住む福島の方もおります。これだけでも“山形プレイパーク in 米沢”の凄さです。

Ishi さんからも「いろんな人と話をすることができて良かったです」という感想をいただきました。

午後になりますと、雨は小降りとなり、やむ時間帯もありました。

それで、少しずつですが、来場者の姿が見られるようになりました。確かに雨で来場者は少なくなりましたが、逆に来場された人たちも、ゆっくり・まったり過ごしてもらうことができました。ただ、そのほとんどは米沢に住む福島からの人たちでした。

雨のプレイパークは私も初めてでしたが、この日は雨に癒されたような気がしました。

明日（8日）の天気予報では「回復する」という予報が出ています。明日に期待しましょう。

2012年7月8日（**日曜日**）曇り 午後から**晴れ**時々曇り

【山形プレイパーク in 米沢・2日目】

雨はその後夜になって再び強く降り、日付が変わったこの日の未明（午前4時近く）まで降り続き、ちょっと心配になったのですが、夜が明ける頃にはやみ、そのあとは曇り空ながらも雨の心配がなくなりました。「さあ、きょうこそは思いっきり遊ぶぞ〜！」

午前9時、スタッフが続々と集まりました。

まずはテントの移動です。昨日は雨でテントを集約して設営しましたが。きょうは点在する形で設置し、広々感を少しでも出すようにしました。雨で発生した泥なども片付けます。

そして、昨日は設営できなかった巨大ブランコなどを設営します。



↑巨大ブランコを設置する善ちゃん・大谷さん



↑綱渡りのロープを設置する丸山さん

巨大ブランコ設置では、ちょっとしたミスもありましたが、これもご愛嬌。設置もプレイパークでは楽しみのひとつです。

午前10時をすぎて、なんとなく“山形プレイパーク in 米沢”の2日目が始まりました。

それでは、2日目の模様を写真でご紹介しましょう。

昨日は雨のためできなかった横断幕をプレイパーク入口に掲げることができました。これで、ここでやっていることが“山形プレイパーク in 米沢”であることを、通り掛かりの人にも伝えることができました。



横断幕は来場した人にも描いてもらいましたが、はじめは路面の上で描きました。途中で、スタッフによって掲げられました。掲げられた横断幕に主要スタッフの皆さんは、満足そうです。



↑満足そうに横断幕を見るスタッフの皆さん



お子さんから若者、そしておとうさん・おかあさんまで、思い思いに横断幕に描いています。あるお子さんは「平和」と描きました。

写真のように、午後になりますと、夏の太陽が顔を出し、気温も上昇し、ますます熱気ムンムンのプレイパークになりました。



↑↓巨大ブランコは順番待ちができるほどの人気です。





綱渡りの上にもう一本ロープを張って、モンキーブリッジです。



横浜のプレイパークと同じように、特に小さなお子さんに人気です。



↓ 綱渡り



これでようやく冒険遊び場・プレイパークの雰囲気になってきました。

続いて、“だがしや楽校”のおみせとしてNPO法人“自然農食山形よもぎの会”が出店した“魚つり”のおみせです。



この日も子どもたちに大人気です。お魚作りするお子さんもたくさんいました。



昨日も申し上げましたが、魚つりのおみせは、素晴らしいの一言です。



↑ 植ええ体験・・・きょうは多くの子どもたち・家族連れが体験しました。



グリーンマローのお店もこの日は大にぎわいです。



きょうは試食もありました。私も食べてみました。キュウリに近い味ですが、甘みもあり、味噌を付けて食べますと、さらに美味しくなります。山形県で本格的に栽培に取り組むのは、NPO法人自然農食山形よもぎの会が初めてです。





↑榎森さんによる青空カフェもにぎわいました。特に午後からは夏の太陽が顔を出し、暑くなりましたので、冷たい飲み物が人気になりました。



大谷さんを中心にした音楽コーナーでは、コンガを叩く子どもたちの風景が見られました。



この日の“山形プレイパーク in 米沢”ではいろんな遊びの風景が見られました。例えば・・・

↓犬と戯れる子どもたち



↓ボール遊び



なんでもあります。



↑ハンモック・・・気持ち良さそう

おやおや、カメラを頭に付けて公園内を走り回るお子さんがいます。何をしているのでしょうか。今回の“山形プレイパーク in 米沢”主催者の丸山さんと、NPO法人日本冒険遊び場づくり協会・地域運営委員の早川大さん（善ちゃん）は、7月6日の会場準備の時「子どもの頭にビデオカメラを付けることで、遊んでいる時の子どもの視線がわかるのではないか」と話していました。果たして、どうなったのでしょうか。



ここで“山形プレイパーク in 米沢”全景をご紹介します。北村公園は、米沢市役所のすぐ近くです。



写真右は、置賜総合文化センター側から北村公園を見たものです。緑の公園内に、横断幕やテントが見えます。

それでは最後に、おきたまラジオNPOセンターのスタッフによる“だがしや楽校”のおみせをご紹介します。

当初、“山形プレイパーク in 米沢”2日目の“だがしや楽校”は、NPO法人“自然農食山形よもぎの会”が出店した“魚つり”のおみせにお任せしようと考えたのですが、Ishiさんが材料の一部を置いてくださったこともあり、私たちも“だがしや楽校”のおみせを出すことにしました。



↑ ↓ 短冊に願い事を書いている子どもたちです。



短冊を七夕に飾り付けます。昨日は少し寂しかった七夕でしたが、きょうはたくさんの短冊を飾ることができました。

ところで、短冊に願い事を書いていた子どもたちの中には、おみせの中にあつた画用紙を見つけ、お絵描きを始めるお子さんがおりました。この画用紙は、私（山口）が、おみせの表示用やゲーム遊び（まんから）に使うこともあり得ると想定して、念のため準備していたのですが、いつの間にか売り切れてしまい（画用紙がなくなつてしまい）、画用紙を補充するほどでした。やっぱり子どもたちはお絵描きが大好きです。



Ishiさんはニット糸も置いてくださいましたので、2日日も“まゆだけまゆこさん”（糸巻き）のおみせを開きました。子どもも大人も、世代に関係なく、特に女性に人気でした。切った竹などに巻きましたが、工夫しながら楽しそうに巻いていました。



↑まゆだけまゆこさん（糸巻き）です。

↓おはじき

↓けん玉

↓ノコギリ体験



おはじきは、ゲーム遊び（まんから）に使うこともあり得ると想定して準備したのですが、男のお子さん、おはじきを使った遊びに取り組んでいます。

けん玉も私（山口）が準備したものです。おとうさん・おかあさんの中に、けん玉上手な人がいました。写真では、おかあさんの妙技にビックリするお子さんの表情が何とも言えません。

糸巻きに使うために、ノコギリを使って竹を切っていたところ、女のお子さんが自らノコギリ体験に挑戦しました。これまた思ってもみなかった風景です。

このように、この日の“だがしや楽校”も「型枠にはまらない」「なんでもあり」「融通無碍」という“だがしや楽校”の特徴を、十分に出すことができました。それにしても、子どもたちの遊ぶ力・創造力・挑戦力には、恐れ入るばかりです。

その力が遺憾なく発揮される場面がやって来たのは、“山形プレイパーク in 米沢”2日目もまもなくおしまいになろうという時でした。それは・・・

このレポートで紹介している写真は、私（山口）がビデオカメラで撮影した映像から静止画を抜き出して、写真のようにしたものです。すなわち、“山形プレイパーク in 米沢”開催中は、“だがしや楽校”に対応しながらも、ビデオカメラによる撮影を行っていました。

そんな私の様子を見ていた3人の女のお子さんたち、私に近づき「そのビデオカメラ、貸して」と言います。私は「貸すよ」と言います。そして、「今も撮影中だからね」と言いながら、1人の女のお子さんにビデオカメラを持たせました。カメラマンごっこの始まりです。

女のお子さんたちが始めたのはインタビューごっこです。私もインタビューされました。その中身は・・・「お名前は？」「だがしやのおじさんです」「どうして“だがしやのおじさん”なのですか？」「駄菓子大好きだからです」・・・てな調子です。

子どもたちは、公園の散歩にやって来た犬も取材しました。



↑ 2つの画像は、子どもたちが撮影した映像から静止画（写真）にしたものです。
写真左はインタビューごっこ、写真右は子どもたちに取材された犬です。

さらには、子どもたちは、短冊を撮影しては、書いてある願い事を紹介しました。最後には、音楽コーナーまで取材しました。



↑ カメラマンごっこをする女の子さんたちです。携帯カメラで撮影しました。

私（山口）個人的には、2日間の“山形プレイパーク in 米沢”の中で、この場面が最も楽しかったひとときでした。なぜなら、私が愛用するビデオカメラが、子どもたちの遊びに活かされたからです。なんでも遊びにしてしまうという子どもたちを応援できたからです。こんなに嬉しいことはありません。

もちろん、ビデオカメラは高価なものですから、子どもたちに預けっぱなしにすることはできません。子どもたちがビデオカメラを持っている間は、子どもたちに付き添いました。でも、それは、子どもたちを監視するのではなく、子どもたちとの大切な交流の時間です。最高の時間を過ごすことができました。

こうして“山形プレイパーク in 米沢”の2日目も終了しました。

1日目と違って、天気に恵まれましたので、プレイパークらしい風景が見られました。おかげさまで多くの人々が“山形プレイパーク in 米沢”にやって来ました。でも、混雑するほどではなく、程良いにぎわいでした。ですから、それぞれ思い思いに楽しむことができたのではないかと思います。

あちこちで、いろんな人たちが交流する風景が見られました。

私もある人と久しぶりに再会を果たすことができた場面がありました。また、米沢に住む数多くの福島の人たちともお会いできました。

それぞれの遊びも楽しかったです。特に子どもたちに人気だったのが、巨大ブランコやモンキーブリッジ、それに“魚つり”です。特に“だがしや楽校”のおみせとして出された“魚つり”は、ひいき目もあるでしょうが、みんなで遊びを作っていくという“だがしや楽校”風景を見事に再現していました。あらためて高く評価したいと思います。

そう言えば、NPO法人自然農食山形よもぎの会の人たちの活躍ぶりも忘れてはなりません。種植え体験やグリーンマローのお店を出しただけではなく、会場準備や終了後の撤収作業では先頭に立って作業を進めていました。

大谷さんの音楽コーナーは、“山形プレイパーク in 米沢”に新鮮な風を吹き込んでいました。子どもたちも大喜びしていました。なお、大谷さんは“心の相談室”も開いていました。

榎森さんによる青空カフェがあったことで、特に暑さが増した午後は、安心感がありました。そんな“山形プレイパーク in 米沢”に参加できたことは、私（山口）としても大きな体験になりました。

おかげさまで、スタッフの人たちからは「山口さんの“だがしや楽校”には、いつも人が集っていて、楽しそうでしたね」という感想をいただくことができました。

こうして2日間の“山形プレイパーク in 米沢”は終了しました。

雨にたたられた1日目。天気にも恵まれた2日目。結果として、プレイパークとしての2つの顔を見ることができました。そういう意味では、とても貴重な2日間でした。

あらためて、丸山さんをはじめとする主催者（NPO法人フードバンク山形）の皆様、増田さん・村上さんらNPO法人自然農食山形よもぎの会の皆様、そのほか“山形プレイパーク in 米沢”開催に力を注いでこられた皆様、そして会場に遊びに来られたすべての皆様に感謝したいと思います。

しかし、課題も多く見られたのが“山形プレイパーク in 米沢”だったことも事実です。

今回の“山形プレイパーク in 米沢”は、米沢にプレイパークを普及・浸透・定着することが本来の目的です。そう考えた時、「プレイパークとは何か」を、米沢市民あるいは米沢に住む福島の人たちに、少しでも伝えることができたのかと、思うと疑問に感じます。

そもそも、チラシを見ても「プレイパークとは何か」が書かれておりませんでした。チラシに書かれていたのは、次のとおりです。

●北村公園で冒険ピクニック —山形プレイパーク in 米沢— お弁当もって集まろう！！

子どもたちが生き生きと遊び、大人たちは日常を離れてゆっくりと過ごす・・・そんな場所を作ってみました。あなたの自由な発想で！！

◆日時：7月7日（土）・8日（日）10：00～15：00

◆場所：米沢市北村公園（雨天決行）

ゆったりと・・・そして、アクティブに・・・もちろんすべて無料

☆ あおぞらCafe → 野外でホッとタイム

☆ だがしや楽校 → 子どもたちの目が輝きます

☆ 有機無農薬野菜を作ろう → 苗作り体験

☆ 心の相談室 → カウンセラーと気軽に話そう

この内容で、これまでプレイパークを知らない人に「プレイパークとは」を伝えることはできるでしょうか。これでは、プレイパークをなんとなくでもイメージすることすらできません。

前日にあたる7月6日の午後、私は会場の北村公園を訪れました。北村公園では、丸山さんや自然農食山形よもぎの会の皆さんがテント設営などの会場準備を行っていました。

やがて、NPO法人日本冒険遊び場づくり協会・地域運営委員の早川大さん（善ちゃん）が会場を訪れました。善ちゃんは丸山さんと会場を下見しながら、遊びの内容を検討しました。

その様子を拝見した私は善ちゃんに「ようやく今回のプレイパークについてイメージすることができました」と申しあげました。すると善ちゃんは「プレイパークとは何もないところから子どもたちと一緒に遊べる遊びを創造する場です」と言います。つまり、「プレイパークとは、あらかじめ遊びをイメージするものではない」とおっしゃるのです。

それでは、実際の“山形プレイパーク in 米沢”は、どうだったのでしょうか。

巨大ブランコやモンキーブリッジは、どなたが設営されたのでしょうか。

2日目の“だがしや楽校”のおみせを出した“おきたまラジオNPOセンター”のスタッフは「何もないところから・・・と言いながら、横断幕では絵描き道具が準備されていました。これでは“だがしや楽校”と変わりない」と指摘します。私（山口）は“楽描きだがしや楽校”（山形市）を思い出しました。

横浜の“まんまるプレイパーク”のパンフレットを、あらためて見てみました。そのパンフレットには、“まんまるプレイパーク”でのたくさんの遊びが紹介されています。

でも、それは遊びを限定するのではなく、遊びのヒントとして紹介しています。イメージできるように紹介しているのです。そして“まんまるプレイパーク”での過ごし方は、それぞれに人（子どもたちも大人たちも）に任されているのです。

善ちゃんは、先にもご紹介しましたが、山形にプレイパークを普及・浸透・定着させることを目的に、山形にしばらく滞在しながら活動して来られました。しかし、善ちゃんによりますと、山形での活動は大変だったようです。山形の人には「なかなか動いてくれない」からだそうです。でも、このようなやり方では「なかなか動いてくれない」のは、山形の人だけでないと思います。

逆に私には「プレイパークとはこういうものだ。どうしてわかってくれないのだろう」と感じてしまいました。それはある意味、見えない誘導にも感じました。

実際に山形市に住む人から、プレイパークについて「一方的な話に感じた」という感想をいただいております。

善ちゃんからは、プレイパークに対する熱い熱い思いを感じました。しかし、思いがあまりにも強すぎる印象も持ちました。だから、一方的な話として感じた人がいたのでしょうか。

善ちゃんとのやり取りで私が気になったのは、善ちゃんの話では「プレイパークとは目的や定義が決まっているもの」と感じるということです。つまり「プレイパークとは、こうではない」と感じるのです。

なぜ、そのように感じたのか。1日目のことです。“だがしや楽校”仲間のIshiさんは初対面の善ちゃんに、おみせ（遊び）の内容を紹介しました。これに対して善ちゃんは、いきなり「目

的は？」と聞きました。

善ちゃんには申し訳ないけど、その言い方は上から目線に感じました。それから「目的は？」という言葉から、「プレイパークって、目指すゴールが決められているの」と思ってしまったのです。プレイパークとは、そうではないはずです。

私たちが人とのコミュニケーションを望むのは、なぜでしょう。それは、人種・世代・性別・立場などを一切取り払って、純粹に人とつながりたいからです。人はやっぱり、人の温かさを求めているのであります。

そこで、私（山口）がいつも申し上げているのは、コミュニケーションにおける「デリケートさ」です。この「デリケートさ」を考慮していただきますと、山形でのプレイパーク普及・浸透・定着活動は、そんなに苦労はしなかったはずです。

ここまでご紹介してきたことで、「プレイパークとは」がおわかりになるのでしょうか。ますますわからなくなったのではないのでしょうか。

このままでは、山形・米沢でプレイパークを普及・浸透・定着させることは難しくなります。

では、プレイパークとはなんでしょう。

冒険遊び場であるプレイパークとは、本来の遊びができる場であります。

私たちは子どもの頃、外に出ては、いろんなことで遊びました。時には泥んこになり、時には危ないこともしました。私などはお寺の境内で、お墓によじ登ったりして遊んだものです。

ところが、今の子どもたちはどうでしょうか。

泥んこ遊びもできません。それは、泥んこ遊びする場がないだけではありません。親が泥んこ遊びをさせないからです。泥んこ遊びとは「汚い遊び」だからです。

今の親は、ちょっとでも危ない遊びは、子どもにさせません。逆に遊びで子どもが怪我をしますと、「設備が悪い」などと、誰かのせいにしてしまいます。親としての子どもの成長をサポートする義務を放棄して・・・。

増して、今どき、お墓によじ登って遊んだら、間違いなく、大目玉を食らうでしょう。もっとも、今ではお墓によじ登って遊ぶなんて、不可能です。

そうした失われた遊びができるようにした場が冒険遊び場・プレイパークです。

そこでは、子どもたちは自由に、思いっきり遊びます。少々の怪我をしながらも、思いっきり遊びます。遊びの中で、子どもたちは成長します。なぜなら、冒険遊び場・プレイパークでは、すべてが自己責任だからです。プレイパークのモットーは「怪我と弁当は自分持ち」です。

こうなりますと、プレイパークを普及・浸透・定着させるには、子どもたちの親だけでなく、地域（社会全体）の理解が必要になることは、言うまでもありません。これが出来るかで、普及・浸透・定着するかが左右されます。つまり、プレイパークを普及・浸透・定着させるには、相当なる努力が必要になるわけです。

このように考えますと、今回の“山形プレイパーク in 米沢”に於ける課題は非常に大きいことが見えてきます。

でも、これでは、せっかく開いた“山形プレイパーク in 米沢”の意味が無くなります。そこで、終了後の皆さんからも感想にもありましたが、もっと簡単に開催できるプレイパークを考え

るべきです。

例えば、身近な場所で、規模を小さくし、遊びも1つか2つで良い、そんな感じのプレイパークです。そう考えますと、私が当初から気になっていたのが“山形プレイパーク in 米沢”というタイトルです。丸山さんは「事務的なこと」と話されましたが、私などは「どうして“米沢プレイパーク”にできなかったの？」と勝手に思います。イヤ、“米沢プレイパーク”でも大きいくらいです。地域に根付くプレイパークなら今回の場合は“北村公園プレイパーク”という名前が良いのです。

“山形プレイパーク in 米沢”の2日目です。お昼頃です。主催者・関係者の人たちが、かなりの時間、テントの中で話し込むというシーンがありました。その間、主催者・関係者の人たちは、会場の様子を見守ることはありませんでした。

プレイリーダーなら、こんなことはあり得ません。常に子ども目線です。子どもたちの中に入り込んで遊びます。しかも常に会場全体を見守ります。

私でさえ、カメラを持っている関係もありますが、常に会場全体を見渡すことを怠りません。“だがしや楽校”に来られた方と、だがしや談義を楽しんでいる間も、怠りませんでした。

そう言えば、プレイパークでは、管理・運営上プレイリーダーの存在は欠かせません。

プレイリーダーがいるから、公共の場である公園でもプレイパークを開くことができるのです。“山形プレイパーク in 米沢”では、プレイリーダーと言える人がいなかったことも「プレイパークとは何か」を伝えきれなかった要因のひとつと感じました。

事前の打ち合わせでも主催者・関係者に申し上げましたが、プレイパークを普及・浸透・定着させるには、プレイリーダーの育成は欠かせません。善ちゃん「プレイリーダーの育成は、地域でプレイパークが必要と感じるようになってから」と言いますが、私は「それは理想だが、その逆もあり得る」と思うのです。プレイリーダーがいることで、地域に対する理解も深まります。それがプレイリーダーの役割でもあります。少なくとも山形・米沢では、プレイリーダーの育成が先決ではないかと思います。

今回の“山形プレイパーク in 米沢”では、来場者の大半は、米沢に住む福島の人たちでした。地元米沢も人たちも来場していたとのことですが、私の目には福島の人たちが圧倒的に多いように感じました。

山形・米沢に於いて、新しいことを始める大変さは、多くの人が承知しています。

そのことを考えますと、繰り返し申し上げますが、もっと「プレイパークとは」を明確に示す必要がありました。

「良いことをしているのだから、わかってもらえるだろう」とか「わからない方が問題だ」では、地域に対しては通用しません。もちろん、自己満足になってはなりません。

ここまで、相当いろんなことを申し上げますが、これも私（山口）が冒険遊び場・プレイパークに賛同するからです。プレイパークが山形・米沢に普及・浸透・定着させることに協力したいからです。

そのために必要なのは、人としての温かさであることを申し上げて、レポートをお終いにいたします。

企画・制作・編集・文責

山口充夫

おきたまラジオNPOセンター

だがしや楽校コーディネーター